



夏の夜空に大輪の花

いなわしろ花火大会を開催

いなわしろ花火大会は8月13日、町運動公園で開かれ、約3000発の花火が夜空を鮮やかに彩りました。今年の花火大会のテーマは「飛躍」。音楽に合わせて、尺玉やスターメインなどを次々に打ち上げ、会場を訪れた大勢の観客を魅了しました。

花火の打ち上げを前に、ステージでは「それいけ！アンパンマンショー」のほか、ひでよくんやこゆりちゃんらによるご当地キャラステージが繰り広げられ、訪れた家族連れなどが楽しい時間を過ごしました。開会式では、前後公町長が「震災から5年が経過したが、復興、創生に向け飛躍できるような町の安全、安心を力強く発信します」とあいさつを述べました。



ご当地キャラなどが登場し、大勢の観客でにぎわったステージイベント

猪苗代の夏の夜空を彩った大輪の花火



東軍殉難者の御霊安らかに

戊辰戦争の激戦地母成峠で慰霊祭

戊辰戦争の激戦地、母成峠^{ぼなりとうげ}の戦いで戦死した東軍殉難者の慰霊祭は8月21日、母成慰霊碑前で執り行われました。

慰霊祭には母成峠弔霊義会の会員や殉難者の子孫など約30人が出席。仏事後、母成峠弔霊義会の橋本彦一会長が祭文を読み上げ、土屋重憲教育長が弔辞を述べました。慰霊祭後、吾妻小4、5年生約20人が白虎隊の剣舞を奉納し、殉難者の霊を慰めました。

剣舞を奉納する吾妻小の児童

スカウト精神と生きる力を培う

北海道・東北ブロックボーイスカウト野営大会

ボーイスカウト日本連盟創始95周年記念第5回北海道・東北ブロック野営大会は7月28日から8月1日まで、天神浜で開かれました。大会には加盟団体のボーイスカウトら約600人が参加。野営技術を生かした体験活動を行いました。青森県むつ市から参加した齋藤有初^{ゆういち}さん(中学3年)は、「猪苗代町はとても自然が美しいところだと感じました。友だちをたくさん作り、友情を深めたいです」と話しました。



「友情ゲーム」で絆を深める参加者



追悼式で式辞を述べる前後町長

恒久平和の願いを込めて

町戦没者追悼式

町戦没者追悼式は8月5日、学びいなで行われ、町遺族連合会会員や関係者らが第二次世界大戦で犠牲になった戦没者800余名の冥福を祈りました。式では、参列者全員で黙とうを捧げた後、前後公町長が「戦争の恐ろしさ、非情さ、むなしさという教訓を次代に引き継ぎ、恒久的な平和維持のために全力を尽くします」と式辞。加藤清司県会津保健福祉事務所長、長沼一夫町議会議長が追悼の辞を述べ、参列者が慰霊に献花しました。

一ノ瀬正一さんに観光功労者表彰

福島県教育旅行の発展に尽力した功績をたたえ

日本観光振興協会より観光振興事業功労者表彰を受けた一ノ瀬正一さん(高森)は8月12日、町役場を訪れ、前後公町長に受賞を報告しました。一ノ瀬さんは、県観光物産交流協会教育旅行推進委員長や磐梯高原学生誘致連合会会長として、長年にわたり教育旅行の受入態勢の整備や誘致活動に取り組み、福島県教育旅行の発展に尽力してきました。一ノ瀬さんは「東日本大震災の風評被害払拭を図るため、引き続き努力します」と話しました。



前後町長に受賞を報告した一ノ瀬さん(左)



大川原副町長から辞令を受けるセイラムさん(右)

外国語指導助手に辞令交付

セイラムさんが3年目を迎える

町外国語指導助手の辞令交付式は8月4日、町役場で行われ、フォーチュネート・セイラム・アドック^{アドック}さんに1年間の任用辞令が交付されました。セイラムさんはガーナ共和国出身の34歳。平成26年8月から外国語指導助手(ALT)として、主に町内の中学校で英語を教えています。式では、大川原久夫副町長が「町民の語学力の向上ため、協力をお願いします」とあいさつしました。

マチュピチュ村長らが来町

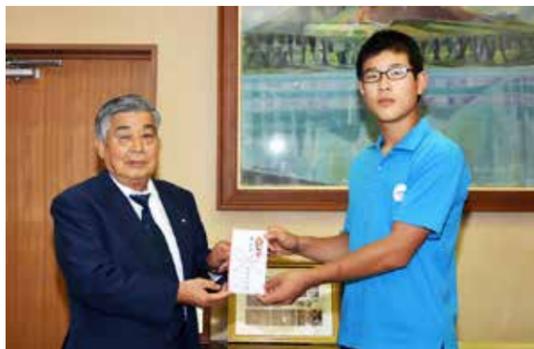
野口英世記念館で博士の功績に触れる

大玉村との友好都市の縁で来県したペルー・マチュピチュ村のダビ・ガヨソ・ガルシア村長らは8月5日、野口英世記念館を訪れました。野口博士は1920(大正9)年に黄熱病の研究のためにペルーに渡り、風土病のオロヤ熱やペルーいぼが同じ病原菌から発症することを学術的に証明しました。

ガルシア村長らは、八子弥寿男野口英世記念館理事長らから歓迎のあいさつを受けた後、野口博士の生家などを視察しました。



八子館長と握手を交わすガルシア村長(右から2人目)



前後町長から激励金を受け取る中島さん(右)

全国小学生柔道大会に出場

中島康輔さんが福島予選会で優勝

6月に郡山市で開かれた第13回全国小学生学年別柔道大会福島予選会に出場し、小学6年生男子50kg超級で優賞した中島康輔さんは8月17日、猪苗代町役場を訪れ、前後町長に全国大会での活躍を誓いました。前後町長は「県大会優勝は日ごろの努力の結果。けがに気を付けて頑張ってください」と激励。中島さんは「昨年のベスト16以上の成績を収められるよう頑張ります」と抱負を述べました。

遊びながら学習する機会を提供

「学びーなであそびーな」を開催

町と東京学芸大の地域協定締結によるイベント「学びーなであそびーな」は8月12、13の両日、学びいなで開かれました。会場には、子どもたちの想像力を養う遊具や布で作られたスペース・チューブというトンネルが設置され、多くの家族連れなどでにぎわいました。スペース・チューブは、舞台用の1枚の布で作られた白いトンネルで、子どもたちは「ふわふわ」「ゆらゆら」とした不思議な感覚に歓声をあげていました。



「スペース・チューブ」を体験する子どもたち



沿道の声援を受けて天神浜をスタートする選手

鉄人が会津路を駆け抜ける

うつくしまトライアスロン in あいづ

第18回うつくしまトライアスロン in あいづは8月21日、町内などで行われ、県内外から集まった512人の選手が熱いレースを繰り広げました。大会は天神浜のスイム1.5km、会津大までのバイク40km、同大周辺のラン10kmの計51.5kmのコースで争われ、選手は自分の限界に挑戦しました。

男子総合では栗原正明選手(山梨県)が初優勝。女子総合では菊池日出子選手(本宮市)が3連覇を達成しました。

咲き誇れ、笑顔の花

スマイルマークに沿ってソバの種まき

福島民報社など東日本大震災の被災3県の新聞社が展開している「スマイルとうほくプロジェクト」のフラワーアート制作は8月6日、町営磐梯山牧場で行われました。猪苗代スポーツ少年団ソフトボール部の部員など約80人が参加し、直径約50cmにかたどられたスマイルマークに沿って、ソバの種を丁寧にまきました。参加した佐藤楓馬さん(猪苗代小)は「スマイルマークに咲くソバの花を見るのが楽しみです」と話しました。



丁寧にソバの種をまく参加者



中ノ沢系こけしについて説明する柿崎さん

「たこ坊主」の魅力を紹介

中ノ沢系 TAKOBOUZU こけし展

中ノ沢系 TAKOBOUZU こけし展は8月20日から31日まで、和みいなで開かれました。こけし展では、東北各地の大きささまざまなこけしが展示されたほか、木地師から始まるこけしの歴史や、中ノ沢系こけしが「たこ坊主」という名で親しまれている由来などをパネルで紹介しました。中ノ沢たこ坊主会会長の柿崎文雄さんは「中ノ沢系こけしが新たな系統として認められるよう認知度を高め、愛好家の機運を高めます」と話しました。

仲間と一緒に清掃活動

猪苗代スポーツ少年団がゴミ拾い

猪苗代スポーツ少年団は8月21日、町内の清掃活動を行いました。同スポーツ少年団の陸上部、ソフトボール部、ミニバスケットボール部、サッカー部に所属する児童72人と保護者30人が2班に分かれてゴミ拾いを行い、さわやかな汗を流しました。

同スポーツ少年団では、毎年8月に清掃活動を実施し、町の美化保全のために取り組んでいます。参加者は「これからも町をきれいにしていきたい」と話しました。



真剣に清掃活動を行う児童ら



高得点を叩き出した第5分団のポンプ車操法

第5分団が堂々の優勝

北会津地方消防操法大会

第16回県消防協会北会津地方消防操法大会は8月7日、町水防センター西側駐車場で開かれました。猪苗代町、磐梯町、会津若松市の消防団の代表チームが出場し、ポンプ車操法の部と小型ポンプ操法の部で操作の正確性などを競いました。ポンプ車操法の部では、第5分団が高得点を叩き出して優勝。小型ポンプ操法の部では、第6分団が準優勝し、町の代表が両部門で活躍しました。優勝した第5分団は、福島市で開かれる県大会に出場します。

マウンテンバイクを楽しもう

子ども向けスクールを開催

MTB(マウンテンバイク)のレースを開催しているジンギスカップ実行委員会は7月31日、「子供向けMTBスクール」を磐梯南ヶ丘牧場で開きました。スクールではBMX選手の穴戸洋貴さんが講師を務め、5歳から14歳までの21人がマウンテンバイクの乗車姿勢など、基礎的な技術を学びました。森山栄幸実行委員長は「マウンテンバイクに親しむことでバランス感覚を養い、自転車に乗る楽しさを感じてほしいです」と話しました。



マウンテンバイクの技術を磨く参加者